様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ５ 月　 ８ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３７２０２６４

研究課題名（和文）日本語を使う私の学び―私費留学生から永住者になった中国人女性のライフストーリー

研究課題名（英文）Life Stories of Chinese Women Who Became Permanent Residents From Privately Financed International Students

研究代表者
範　玉梅（FAN, YUMEI）

大阪大学・文学研究科・研究員

研究者番号：８０５５１９５２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　1,700,000円、（間接経費）　510,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本における私費留学生から永住者になった中国人女性8人のライフストーリーを通して、彼女らの第二言語を使うことで生まれた学びがどのようなものなのかを明らかにするものである。彼女らは日本語で生きてきた10年ほどの間に異文化に対峙する中で、何を学び、どのように成長してきたのかという彼女ら自身の経験を記述分析し、日本という新しい実践共同体の中で第二言語による新たな自己の獲得とは、彼女らにとってはどのような意味を持つのか、彼女らのアイディンティティの変容との相互関係を考察で解明した。本研究は日本多文化共生の実現及び日本語教育における多文化理解に重要な示唆が与えてくれたと言えよう。

研究成果の概要（英文）：This paper describes the experience of eight Chinese women living in Japan, using Japanese as a second language, by means of life stories. I shall trace the trajectory of their learning through living in a foreign culture, which spans over 10 year period. I shall then explore what it has meant to them to acquire a new self in a second language in a new community of practice in Japan and how gender has been at play in this process. By way of conclusion I shall try to holistically grasp the interrelationship between the acquisition of a new self and the transformation of identities.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：異文化教育　日本語教育

キーワード：中国人女性　永住者　留学生　女性移民　ライフストーリー　ジェンダ　異文化　日本社会

１．研究開始当初の背景

2008 年、日本ではアジア人材確保を背景に「留学生 30 万人受け入れ計画」が発表された。グローバル化の進行に伴い、異なる文化背景を持つ人々との多文化共生をどのように実現させていくかが本社会のもっとも大きな課題となっている。このような中、日本語教育は、異文化理解及び国際理解への貢献がなお一層期待され、多様な言語文化を持つ人々を社会の一員として受け入れ、尊重するための道が模索され始めた（西原,2005)。日本語教育研究をはじめとする外国語教育研究においては、教師や学習者を教室という空間だけではなく、もっと大きな社会文化の文脈の中で取り上げ、その問題を理解することが必要になってきた（範,2008；中山,2008 など)。ライフストーリーはこの「理解」（文脈のなかで物事を理解すること）というアプローチに結びついている質的研究方法の一つとして様々な分野で応用され、第二言語習得研究の分野では、ライフストーリー(Pavlenko&Lantolf,2000;Pavlenko,2001,2004;山口,2007 など)は、言語学習の当事者である学習者の体験にアクセスできる貴重な手段であると中山(2009)は指摘している。

これらの研究の背景とした代表的な学習論（レイブ＆ウェンガー,1993)は、環境と学習の相互行為に着目したものであり、学習を個体による知識、技能の獲得過程としてではなく、実践コミュニティへの参加過程として理解、叙述するということにある（高木,1999：3)。この「正統的周辺参加」学習モデルの影響をうけ、日本語教育研究においても、新たな動向が窺える。一つは日本語教育研究の方向が変りつつあることである。従来教室の中に焦点を当ててきた日本語教育は、内から外へ注目し、学生を社会の中の存在として捉え始めた。もう一つは、研究方法において、従来のアンケートのような量的な調査方法から質的な研究方法も必要だと思われ始めた点である（範,2008)。

２．研究の目的

本研究は上述の背景にして中国人女性たちの学びに注目し、ライフストーリーで彼女たちの経験を明らかにするものであり、具体的な研究目的としては、３つがある。まず、今までの留学生研究(井上,2001；葛,1999；岡益己ほか,1995,1996a,1996b；田中,2000；段,2003 など)及び華僑研究(段,2003；過,1999 など)に無視された部分を拾え上げ、彼女たちの 10 年以来の成長変化に着目し、彼女達の葛藤、危機、幸せ、楽しみを彼女らの視点から解明する。つぎに日本という新しい実践共同体の中に第二言語による新たな自己の獲得とは、彼女らにとってはどのような意味があるのか、彼女らのアイディンティティの変容との相互関係を包括的に捉え、読者に筆者と同じように彼女達を一人の人間として理解してもらいたい。最後は、従来の研究では、論じ不足のジャンダーという視点からも女性自身の問題を探っていきたい。

３．研究の方法

本研究は、日本における私費留学生から永住者になった 8 人の中国人女性を研究対象にし、日本語を使う彼女らの学びに焦点におき、第二言語で生きる彼女らの経験及びアイディンティティの変容を質的研究方法であるライフストーリーの方法で捉えようとするものである。研究協力者である中国人女性の 8 人は、元私費留学生であり、大学院修了後に就職から失業への経験をし、未来の行方を心配しながら、様々な葛藤に乗り越え、日本で永住する決意に至った 30 半ばの人たちである。彼女たちのこの日本で生きる十年ほどの体験をライフストーリーで明らかにするため、研究期間は二年間の予定と考えており、その間に以下の問題を明らかにした。

まず、彼女らの生きてきた母国中国及び日本の社会文化環境を資料や文献で把握した。

つぎに、インタビューで彼女たちの日本にいる経験を理解したうえ、彼女たちはコミュニティへの参加、文化実践への参加及びそこでの学びを焦点におき、分析を行った。最後に、日本語を使って自分のポジションを取ろうという彼女たちの生きる姿をストーリーにまとめ、第二言語で生きるという体験を彼女たちの視線から明らかにした。考察では、ジャンダーの視点も含めて日本という新しい実践共同体の中に第二言語による新たな自己の獲得とは、彼女らにとってはどのようなことなのか、彼女らのアイディンティティの変容との相互関係を検討した。なお、よりよいデータを収集するため、3 ヶ月ごとに協力者たちの語り合いの場も設け、この場で起こることをフィールドノートに記入し、分析の資料として使用した。

４．研究成果

本研究は主にライフストーリー、多文化理解、女性問題、移民政策及び問題、留学生問題、学びというキーワードをめぐって行ったものであり、主な成果は 4 つあると考えられる。

① 平成 24 年度の『新世代中国人の日本留学』（筆者，2012）の出版は、日本にいる中国人学習者に関わる諸問題だけではなく、彼らが生きてきた母国中国及び日本の社会文化環境や本研究の協力者である中国人女性の経験を日本社会に理解してもらうにもも意味があるのではないかと思う。

② 日本語学習者である中国人女性の視点から、一人の協力者のライフストーリを取り上げ、国際学会（5th Independent Learning Association Conference 2012）での発表は、日本にいる女性学習者を取り巻く環境をより広い視野で議論ができたことや、“ Language as cultural capital for female L2 users(移住女性の文化資本としての言語)”（39回目の全国語学教育学会）の発表に言及した女性移民の問題が該当学会ニュースレターで掲載されたことなどからみれば、女性永住者をめぐる問題が検討すべき重要な課題の一つとして言語教育研究に注目されるようになってきたと言える。研究者の関心を集められること自体が今後の問題の改善及び解決につながるようになるので、非常に意義があると思う。

③ 2014年8月に出版する中国語の訳著である《第二言語学習者的成長》（中国高等教育出版社出版決定）は、学習者の自主学習の育成を様々な面から考えたものであり、学びと第二言語学習環境との関係の検討が本研究の課題を考えるにも多文化社会や共生社会を作るにもよい参考となっている。

④ 現在取り込んでいる共同プロジェクトが二つある。一つは中国人大学院生向けの教育学研究方法論のシリーズ図書の編著(《日本語教育学研究方法論》、筆者は質的研究方法を担当）、もう一つは中国人日本語学習者向けの教科書の編著（《現代日本社会》、筆者は「共生社会、女性問題、日本国際化」を担当）。二つとも本研究のデータを基にしたものであるため、本研究の更なる発展となるものだと考える。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 1 件）

① 範玉梅(2013)「教師教育における多文化教育アプローチの調査」『組織的な若手研究者等海外派遣プログラム多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム派遣成果最終報告書（平成 21 年度～平成 24 年度）』大阪大学大学院文学研究科 pp. 85-87

② 範玉梅 (2011)「日本語学校の学びの再生を考える―あるキリスト教Ｋ教会の留学生居場所づくりから」『跨文化交际中的日语教育研究』中国高等教育出版社　査読有 pp. 330-331

〔学会発表〕（計９件）

① 範玉梅(2013)「在日中国人女性のライフスト

ーリー研究」ライスストーリー研究会：中国日本語教育学学会北京組主催 2014.2.26　於く中国北京日本研究センター

② 範玉梅(2013)「在日中国人新移民問題研究」北京科技大学外国語学院功能言語学研究会 2014 3.14　於北京科技大学外国語学院

③ 瀬井陽子　久野弓枝　範玉梅　青木直子 (2013)*Language as cultural capital for female L2 users*(移住女性の文化資本としての言語). 39th Annual International Conference on Language Teaching and Learning &Educational Materials Exhibition：全国語学教育学会JALT主催　2013.10.27　於神戸コンベンションセンター

④ 範玉梅 (2012)「日本第二言語で生きる一人の在日中国人女性の学び（A study of a Chinese woman in Japan who live in a second language）」『日本語教育・日本研究：双方向的アプローチの実践と可能性』第九回国際日本語教育・日本研究シンポジウム：香港日本語教育学会　2012.11.29 於香港城市大学

⑤ Yumei Fan (2012) *A life story of a Chinese woman living in Japan:A trajectory of learning through living in a foreign culture and the acquisition of an L2 speaking self.* 5th Independent Learning Association Conference 2012. 2012.8.30　於 Victoria Univ of Wellington

⑥ Aoki, N. & Fan, Y. (2011) *Encouraging outward and inward reflection in student teachers: A teacher educator's interpretation* 第4回中国全国外国語教師発展与教育大会 2011.10.27　於中国浙江師範大学

⑦ 範玉梅 (2011)「前途与信仰的失衡-从在日中国青年的基督教信仰状况谈起」中国道路与中国形象国際学術論壇　ハーバード大学アジア研究センターと山東大学政治思想研究所　2011.10.17　於中国山東大学

⑧ 範玉梅 (2011)「日本語学校の学びの再生を考える―あるキリスト教Ｋ教会の留学生居場所づくりから」世界日本語教育学学会　2011.8.11　於中国天津外国語大学

⑨ Yumei Fan (2011) *Teacher Education Program at Osaka University in Japan*　該当大学教育学部学生向けのプレゼンテーション 2011.2.28　於アメリカカリフォルニア州立大学ロングビーチ校

〔図書〕（計４件）

① 範玉梅　他、中国高等教育出版社、日本语教育学研究方法論、2015、324

② 範玉梅　他、中国外研社、現代日本社会、2015、350

③ 範玉梅、中国高等教育出版社、学习者的成長、2014、250

④ 範玉梅、中国戏剧出版社、中国新新人类的日本留学―彼らはなぜ神様の子になったのか？、ISBN：978-7-104-037、2012、423